

平成30年10月6日(土)

老球の細道440号

## ハートの良い生徒は良い成果を生む

会津バスケットボール協会 室井 富仁

教師冥利に尽きるという経験は滅多にない。その滅多にないことを以前経験させてもらったことがある。冥利の内容は人それぞれであろうが、あえて「オレ流冥利」。

今は昔、葵高校体育科の忘年会を喜多方でやった。場所はかつての教え子が営んでいる居酒屋である。喜多方から転勤してきた先生が喜多方にとっても良い店があると言い出したことがきっかけだった。その店が奇しくも私の喜多方女子高校時代の教え子の店だった。店を出してまもなくはなかったけれど、こだわりの料理、お酒、そして何と言っても女将である教え子の人柄がにじみ出た「おもてなし」の心が常連さんをたくさん作っていた。

彼女の人柄は高校時代から変わらず、真面目で素直なことはもちろん、人を笑わせたり、楽しませたりすることに非凡な才能があった。リーダーシップにも優れ、バスケットボール部の主将のみならずホームルーム長としてもクラスメートや担任の先生から絶大な信頼を受けていた。

3年生の最後の年、習慣性肩脱臼でドクターストップがかかっているが、会津大会で優勝するまでは辞められないと言い、最後の選抜大会まで残ってプレーし公約通り優勝した。その前の総体地区予選が5位だったので優勝はまさにドラマだった。

そんな思い出話をしながら食材にこだわった創作料理と彼女とご主人オススメの薩摩焼酎をごちそうになった。なんでも超一流をとということで日本の焼酎のビック4と言われる「4M」の試飲もサービスしてくれた。「森伊蔵」「村尾」「魔王」「室井?」。それぞれ錫のお猪口で飲んだが、「室井」のお猪口には名前の紙片が入っているという余興であった。

20数年前の教え子とその店で酒と料理をごちそうになりながら昔話に花を咲かせる。これぞ教師冥利に尽きるというものである。そしてさらにそれで終わらない。彼女は当時私が発行していた手書きの「バスケットボール通信」「体育通信(通称:退屈信)」をセピア色の化石状態で大切に保存してくれていたのを見せてくれた。

私が当時指導したことを今でも忘れずに心に留め、下手くそな字で書き記した通信を今でも大切に扱ってくれているのを見せられて感謝の気持ちとお腹が一杯だった。一緒にいた多くの同僚の若い先生方が驚嘆して言った「私たちもこのような教え子さんに出会えるだろうか?」と。ハートの良い生徒はいつまでも教師を元気づけてくれる。

終わってしまった教員生活。ちょうど彼女が在学して頃に出会った詩(作者忘却)を読み直した。あれから20数年間ノートに貼り続け、ずっと私に渴を入れてくれた。

【私が先生になったとき/自分が真理から目を背けて/子どもたちに本当のことが語れるか  
私が先生になったとき/自分が未来から目を背けて/子どもたちに明日のことが語れるか  
私が先生になったとき/自分が理想を持たないで/子どもたちにどんな夢を語れるか  
私が先生になったとき/自分に誇りをもたないで/子どもたちに胸をはれといえるか  
私が先生になったとき/自分がスクラムの外にいて/子どもたちに仲良くしろといえるのか  
私が先生になったとき/自分の闘いに目を背けて/子どもたちに勇気を出せといえるか】

先日喜多方で行われた会津地区高校バスケットボール選手権大会の懇親会が彼女の店で開催されたという。バスケットボールを語りながら食事のできるお店になるだろう。